報　告

公益財団法人高速道路調査会の代表者が評議員を務めるREAAAの第118回評議員会が開催され，併せて開催された第22回若手技術者・専門家会議の概要について出席者から報告します。

第118回REAAA評議員会出席報告

片　山　道　夫*

はじめに

アジア・オーストラレイシア道路技術協会（Road Engineering Association of Asia and Australasia：以下「REAAA」という）の第118回評議員会が，2022年10月18日にニュージーランド（以下「NZ」という）のクライストチャーチで開催された。会議はオンラインとのハイブリッド形式ではあったものの，NZ支部とREAAA事務局の尽力により，第111回評議員会以来3年ぶりの対面での開催が実現し，多くのメンバー国の評議員とオブザーバーが現地で参加し，活発な議論を行うとともに，メンバー間の交流を深める貴重な場となった。

日本からは，橋場REAAA副会長（日本道路協会 代表評議員），片山評議員（高速道路調査会 代表評議員），黒田推薦評議員が現地で参加し，鳥居推薦評議員，神谷舗装技術小委員会委員長がオンラインで参加した。

評議員会と同日に，第22回若手技術者・専門家会議（Young Engineers and Professionals：以下「YEP」という）が，ハイブリッド方式で開催された。評議員会の前日には，“NZ Chapter Roadshow”と題して，8人の講演者によるNZの道路技術分野の最新事情や技術的取組みに関する講演が行われた。また，同国のYEP 4人による技術発表コンペティションも行われ，評議員からの投票によって最優秀者を選ぶという，国際会議を若手専門家育成の舞台として活用したユニークな試みがなされた。

今回の出席報告では，評議員会は片山が担当し，TCおよび各技術小委員会報告については神谷氏が，YEP会議については，現地で参加した3名のYEP（中日本高速道路㈱北口氏，首都高速道路㈱大村氏，本州四国連絡高速道路㈱小林氏）が各々担当する。

表―1　第118回REAAA評議員会等プログラム

月日	時間帯	行事内容
10月17日	午前・午後	NZ Roadshow
10月18日	午前	YEP会議
		プレ評議員会
	午後	評議員会
10月19日	午前・午後	テクニカルビジット（CAPTIF Road Research Center）

1．第118回評議員会の開催と進行

会議はDr. Sung-Hwan Kim REAAA会長（韓国）の挨拶とMr. Robin Malley NZ支部長による歓迎の辞によって始まり，従前どおり前回評議員会の議事録確認，財務委員会報告，事務総長報告がなされた後，今回からは新たに各作業委員会（以下「WC」という）

＊　REAAA評議員，日本高速道路インターナショナル㈱代表取締役社長

からの報告がなされる形で進行された。

WC は，第 117 回評議員会において提案された運営組織構成の見直しに伴い設置されたもので，REAAA の９委員会のうち，運営委員会（C1）と指名委員会（C2）を除く７委員会（特別タスク委員会（C3），技術委員会（C4），国際調整委員会（C5），片平・三野基金委員会（C6），Hwang 基金委員会（C7），財務委員会（C8），会員促進委員会（C9））の下に，各々の作業分野別に構成された，合わせて 23 の WC からなっている。

各 WC 長には WC による各活動の促進と，３カ月ごとのステータスレポートの提出，半年ごとに開催される評議員会での報告・議論が義務付けられ，日本からは IRF 調整 WC（C5WC1）および三野ベストプロジェクト賞 WC（C6WC2）に橋場氏，片平賞 WC（C6WC1）に片山，新会員国促進 WC（C9WC2）に黒田氏が，各 WC 長の任に就いている。

２．財務委員会報告

2022 会計年度（１～８月）の収支状況および 2023 会計年度予算について，財務委員長（Ms. Lydwina Wardhani インドネシア）から報告された。

⑴ 2022 会計年度（１～８月）の収支状況

当該期間の総収入は 120,084 マレーシア・リンギッド（以下「RM」と表示，日本円で約 370 万円）であり，年度当初予算額 RM 259,600 の約 42％であった。総支出は RM 129,191（日本円で約 400 万円）であり，年度当初予算額 RM 256,532 の約 50％であった。この結果，当該期間の総収支は，RM 9,107（日本円で約 30 万円）の支出超過であった。

収入下振れの最大の要因は，会費等の未納・入金遅れであり，当該期間収入は RM 67,805 と，年度当初予算額 RM 145,400 の約 47％であった。会費等の未納は REAAA の財務運営上の最大の課題であり，未納額の累計は，昨年度末時点で RM 101,545 だった（日本の会員による未納額は RM 1,150）。その一方で，各支部等の地道な努力によって未納金の回収が進められていることも報告された。

⑵ 2023 会計年度予算案（１～ 12 月）の提示

2023 会計年度の総収入は RM 310,421（日本円で約 950 万円），総支出は RM 303,613（日本円で約 930 万円），総収支は RM 6,508（日本円で約 20 万円）のプラスを見込むことが報告された。

2023 年度予算案の総収入は，2022 年度予算に対して約２割高く設定された。これは，Kim 会長が就任した初年度となった 2022 年度予算が，COVID-19 パンデミック影響下における現実的な案として低めに設定されたのに対し，2023 年度予算案は，各委員会の下に新たに設置された WC の下で REAAA の活動自体を活発化させ，収入増につなげることを前提として設定されたことによる。

この予算案の収入見込みを達成するためとして，財務委員長から各評議員および各国支部等に対して，会費未納者が 2023 年３月までの間に未納金を入金するよう，改めてお願いすること，新たに少なくとも３法人会員を 2023 年度内に獲得すること等の強い協力要請があった。

３．事務総長報告

事務総長（Ir.Mohd Shahrom Bin Ahmad Saman マレーシア）から，第 17 期評議員の就任後これまでの間遅延してきた，銀行への所定の登録手続き等が全て完了したこと等が報告された。

４．WC 活動報告

今回報告があった WC 活動状況報告のうち，主なものについて以下に紹介する。

⑴ C3WC2：ニュースレター WC

REAAA ニュースレターの発行状況および今後の発行方針について，委員の Mr. Chung-Cheng Kao（台湾）から報告された。

ニュースレターは，会員間の連携と専門知識・経験の共有を促進，活動を見える化し，メンバーシップの強化・拡大に貢献することを目的として，毎年２回発行する。2022 年は，第１号を９月に発行し，第２号は 2023 年３月の発行となる。今後毎年発行される各号の掲載記事の主要テーマは，第１号ではメンバー国で開

催された注目すべきイベントや道路関連マーケットの動向等，第２号では技術関連記事，仕様書，新技術・新工法，道路技術関連のケーススタディ等とする。

C3WC4は全メンバー国に対し，掲載記事の積極的な投稿を呼びかけると共に，ニュースレターをREAAAの広告収入の媒体としても機能させるために，C3WC7（広告 WC）と連携して作成した広告掲載基準案を示し，その実現に向けた支援を呼びかけた。また，毎年の評議員会開催国から，当該年のニュースレター１号および２号に，各１編ずつ評議会関連の記事を投稿することと，広告を掲載することを提案した。

⑵ C3WC3 ウェビナー/セミナー WC

REAAA ウェビナーについては，年２回，メンバー各国持ち回りで主催することが既に示されている。今回は，2022 年７月に開催された「軟弱地盤処理と沈埋トンネル」に関するウェビナーと，同11 月開催予定（当時）の「道路における気候変動・レジリエンス・災害マネジメント」に関するウェビナーについて，WC 長（Dr. Ir. Danis Hidayat Sumadilaga インドネシア）から報告された。両ウェビナー共に IRDA（インドネシア道路整備協会），他との共催の形で開催され，７月のウェビナーにおいては，韓国企業２社から３名の講演者が参加した。

⑶ C3WC4：50 周年記念イベント WC

REAAA が 2023 年で設立（1973 年）から 50 周年を迎えることを記念するイベントの準備状況について，WC 長（Mr. Kieran Sharp オーストラリア）から以下のとおり報告された。

記念イベントは，2023 年９月～ 10 月に予定される評議員会と合わせた開催とする。50 周年記念誌を作成し，評議員会で配布，REAAA のウェブサイト等に掲載，その内容を取りまとめ，記念イベントにおいて発表する計画とする。各国に対して WC の委員を指名するよう要請中（日本からは片山が参加）である。記念誌作成のために必要な情報等についての各国評議員との意見交換を既に着手しているが，WC としての本格的な準備作業の開始は，各国からの委員の指名が完了次第となる見込みである。

⑷ C3WC6：ウェブサイト WC

REAAA のオフィシャル・ウェブサイトについては，メンバー各国のプロジェクトや道路セクターの動向等に関する情報，その他ナレッジを共有するためのプラットホームとして刷新すべく，順次作業が進められている。

今回，C3WC6 からサイトのモックアップ・デザインが提示され，了承されるとともに，今後のスケジュールについて，11 月中に現在のサイトからのデータ移行を開始し，12 月中に新しいサイトの掲示を開始する予定であることが，WC 長の Mr. Yongwook Lee 韓国）から報告された。

⑸ C3WC7：広告 WC

広告収入を得るために活用することになる REAAA ニュースレター，ジャーナル，ウェブサイトの３媒体について，C3WC7 として各々の広告掲載基準を提案し，了承を得た。また，REAAA の 11 メンバー国全てから，ニュースレターおよびジャーナルについては毎年各号１つずつ，ウェブサイトについては毎年１つずつ掲載を得ることを目標とすることが，WC 長の Ms. Maria Catalina E. Cabral Ph.D フィリピン）から報告された。

⑹ C4WC1 ～ C4WC3：技術委員会（TC）および技術小委員会（TSC）関連 WC

技術委員会（TC）および３つの技術小委員会（舗装技術小委員会（Pavement Technology Committee, PTC），気候変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会（Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee, CCREMC）および道路安全小委員会（Road Safety Committee, RSC））の状況について，TC 委員長（Mr. Kieran Sharp オーストラリア）および PTC（C4WC1）委員長の神谷氏から報告された。

TC および各 TSC を担当する３つの WC（C4WC1 ～ C4WC3）の活動いついては，神谷氏から別載で報告する。

⑺ C4WC4：YEP WC

YEP は，REAAA の若手技術者・専門家の交流促

進を目的とするもので，活発な活動が進められている。WC の今後の活動目標として，YEP 会議を半年に１度，評議員会と同時開催していくことに加え，より多くの YEP が優れた技術論文を作成し，片平賞（４年に１度の REAAA 道路会議で表彰）の授賞を目指すことができるよう，WC の活動をとおして支援していくことが，WC 長（Mr. Hazam Hashim マレーシア）から報告された。

なお，YEP には現在，日本の高速道路会社６社から１名ずつ６名がメンバーとなっているが，今回の評議員会（オブザーバー参加）と同日に開催された第 22 回 YEP 会議には，そのうち３名が現地で参加した。この YEP 会議については，参加した北口氏，大村氏，小林氏の３名から別載で報告する。

⑻ C5WC1 ～ C5WC3：国際調整委員会関連 WC

国際調整委員会関連の３つの WC は，REAAA の立場の強化に係る活動の一環として，IRF（国際道路連盟），PIARC（世界道路協会），UN ESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会），ADB（アジア開発銀行）と連携した活動の推進を目指して活動を行うことになっている。これらの連携対象機関のうち，IRF については，従前から連携のパイプを有している韓国が今後の交渉の役割を担うこと，PIARC と UN ESCAP については，今後予定される両機関のマレーシアでの活動等を契機として，REAAA と連携した活動の幅を広げていくことが報告された。

⑼ C6WC1 ～ C6WC2：片平基金・三野基金委員会，片平賞 WC および三野ベストプロジェクト賞 WC

片平・三野両基金の状況について，2022 年７月時点の残額は，片平基金は GEP 37,021.07（日本円で約 600 万円），三野基金は USD 35,157.96（日本円で約 500 万円）であり，前回報告の 2022 年２月からの変動額は，各々金利分のみであったことを，委員長の片山から報告した。

片平賞 WC については，４年に１度の道路会議で表彰される片平賞（正式には片平会議賞）の表彰対象を一部見直す検討を，TC と連携して行うことを WC 長の片山から提案し，了承を得た。

片平賞は，故片平信貴氏（REAAA 第５期会長）の遺言に基づき創設された「片平基金」を活用して 1991 年に創設され，第７回道路会議（1992 年）以降，第 16 回道路会議（2021 年）までの 10 期にわたり，主に若手技術者が作成・応募した優秀な技術論文を表彰し，REAAA の活動に大きく貢献してきた。

今回の見直し検討は，優秀な技術論文を表彰するという片平会議賞の基本的な枠組みを変えることなく，表彰論文のひとつに，日常の TC の活動を通して作成される優秀なケーススタディ・レポート等の報告書・論文１編を含め，TC 賞（仮称）として表彰することを目指すものである。この見直しにより，これまで一部の国に偏りがちだった表彰論文の対象の幅を広げ，より多くの国の若手技術者の授賞機会を増やすことと，日常の TC の活動を活発化させることを期待している。

一方，片平賞には上記の片平会議賞と共に，片平ジャーナル賞という賞が 2007 年に創設され，存在してきた。この賞は，REAAA ジャーナルに掲載される論文の中から，最も優秀な論文を年に１度表彰する目的で創設されたものだが，創設からこれまでの間一度も表彰されたことがなく，いわば休眠状態にあった。このような経緯に加え，表彰のための資金を新たにねん出することが困難な状況にあることも踏まえ，C6WC1 と TC は片平ジャーナル賞の廃止を共同で提案し，了承を得た。

三野ベストプロジェクト賞 WC については，第 17 回 REAAA 道路会議（2025 年開催予定）の表彰に向けて，同賞の評価対象，評価基準および評価委員会の構成について，WC 長の橋場氏から報告された。

５．第 119 回評議員会（予定）

次回評議会は，2023 年春にシンガポールで開催する予定であることが報告された。

おわりに

NZ のクライストチャーチは，別名ガーデン・シティとも呼ばれる歴史ある美しい街で，南半球の春を迎えた 10 月には，マロニエの木々があちらこちらで花を咲かせていた。その一方で，街を歩くと，2011 年に起きた震災の跡も色濃く残り，大自然の猛威が人々の日々の営みに与える影響の大きさを，今更ながらに感

写真―1　REAAA 第 118 回評議員会 各国の評議員

じざるを得なかった。

そのような中開催された REAAA 第 118 回評議員会では，活動のさらなる活性化と財務の健全化に向けた各 WC の活動について，時には厳しく，時には和やかに意見交換がなされるとともに，今後予定されるさまざまなイベント等に対して，各国評議員が責任を持って対応していくことが改めて確認されることとなった（写真―1）。

日本の REAAA 会員の皆さまをはじめ，これまで REAAA の活動に関心を持ち，ご支援をくださっている多くの皆さまに感謝いたしますとともに，現在進められている REAAA の各種の取組みに対し，より一層のご理解，ご支援をくださいますよう，この場を借りてお願いいたします。

REAAA 技術委員会（TC）・技術小委員会（TSC）報告

神　谷　恵　三*

本稿では，技術委員会（Technical Committee）の全般と各技術委員会（Technical Sub-Committee）の活動について神谷が報告する。

○技術委員会

最初に，技術委員長 Mr. Kieran Sharp から現 TC の会員国別委員構成が報告された。自ら編集支援を志願していただいた台湾委員への謝辞が述べられた一方，依然として代表者名の登録が滞っている。委員指名・登録が未了の国に対して，委員長からこの事務手続きを進めていただくよう改めて求められた。

この他，今回は若手技術者・専門家会議（YEP）と共に，後述する新たな技術小委員会が TC メンバーリストに組み込まれた。これは着実に活動を進めている YEP への配慮であると共に，委員登録の意識を高めようとする委員長のお考えであると思われる。

続いて委員長から，３月に発刊予定の REAAA 機関紙の紹介があった。ここでは 2021 年９月に開催されたマニラ大会において片平賞に輝いた優秀論文の栄誉を称えることを目的としている。表―1 は，前回に報告済みであるが，委員長から論文受賞者名が紹介されたため，再度報告をしておく。特筆すべきは，片平

表―1　REAAA ジャーナルに掲載予定の技術論文

片平賞１位	Development of new test method for evaluating interlayer bonding properties of asphalt pavement considering pore water pressure, by Hiroki Takebayashi, Shigeki Takahashi, Koki Bamba & Toshiyuki Chikamatsu (Japan)
片平賞２位	All- weather, highly durable cold asphalt mixture for pavement repair, by Akihito Hirota, Hiromi Murai & Tsutomu Gento (Japan)
片平賞３位	Development of a merging support system for automated vehicles, by Hirotaka Sekiya, Ryo Nakata , Toshimasa Nakagawa, Shinji Itsubo & Yasuyuki Iwasato (Japan)
	Preventative maintenance strategy of pavement by utilizing NEXCO-PMS, by Yuki Ota & Keizo Kamiya (Japan)
YEP 論文	Disaster risk reduction and management framework for Kennon Road, by Joseph Rei Mark Co (Philippines)
	Analysis of crash severity in Indonesia using ordinal logistic regression, by Yusuf Adinegoro, Rusdi bin Rusli, Mohyiddin bin Salleh & Julia Augustine (Indonesia)
	Utilization of slag nickel waste as aggregate for road pavement material, by Iwan Susanto, Rulli Ranastra, Yohanes Ronny & Hanna Abdul Halim (Indonesia)

＊　REAAA 舗装技術小委員会（PTC）委員長，中日本高速道路㈱技術本部高度技術推進部専門主幹

賞４編の受賞著者は全て日本人であるということである。

最後に，委員長からアセットマネジメント技術小委員会という新たな技術小委員会設立の提案がなされた。この提案は会議開催の直前になって事務局へ提出されたため，TC の誰も把握できていない。また，会議では議論する時間も無かったことから，委員長から紹介する程度に留まった。委員長の主旨は，気候変動への大局的な捉え方として，本委員会の設立は今後重要であるとしている。これは，後述する舗装技術小委員会と気候変動・レジリエンス・緊急事態管理委員会との調整的な役目を期待するものと思われる。

○舗装技術小委員会（Pavement Technology Committee, PTC）

今期から，評議員会に対して技術小委員会を含める全作業委員会は，３カ月の進捗報告が課せられている。小委員長を務める神谷は，まず今期の活動計画（TOR）は補修の維持修繕に関する各国のカントリーレポートの作成であること説明をした。９月末までにレポートの題名を報告していただくようにお願いしていたが，これに応えてくれたのは韓国とシンガポールの２カ国のみであった。実は，３月に PIARC TC 4.1 舗装委員会と共同ワークショップがマレーシアで予定されているため，今年末までには２編の発表レポートを厳選せねばならない状況にある。PIARC とのコラボレーションの重要性に鑑みて，各国評議員からカントリーレポートの執筆を促していただくようにお願いをした。その結果，台湾から既にレポート案を考えており，速やかに報告するというご意見をいただいた。

レスポンスの遅れは想定の範囲であった。そのため，当初から各国に対してはオンラインで公開済みの自国舗装の維持修繕事例を既にお送りしている。さらに，彼らの負担軽減を図るべく執筆原案の作成等の協力をも申し出ていた。そのような中，台湾からの即答は非常に有難いものであった。

○道路交通安全小委員会（Road Safety Committee, RSC）

本小委員長 Mr. Abdul Manan（Malaysia）に代わり，Sharp 氏が活動の報告を行った。東南アジアでは原動機付き二輪車に伴う交通事故の深刻さに鑑みて，ライダーの安全に関する現況のインフラ戦略を調査することが決定された。これは PIARC TC 3.1（Road Safety）主導の調査とも関係性を有している。このような背景の下に３つのパートからなるアンケート調査が成されている。

Part A：交通安全情報の概要―2022 年から過去３カ年における原動機付き二輪車の統計値とし，データの出典明示できること。

Part B：交通弱者に向けられた道路インフラプログラムや指針等―弱者の安全向上に資する各種施策類の詳細。

Part C：ケーススタディ―Part B の一例として原動機付き二輪車の安全性，施策の詳細とその効果について。

前回の報告では３月末日を提出期限としているが，小委員長欠席のためアンケートの進捗は分からない。

○気候変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会（Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee, CCREMC）

本小委員長と PIARC TC 1.4 の委員長を兼任されている Ms. Caroline EVANS（Australia）が欠席のため，Sharp 氏が活動の報告を行った。

本小委員会の目的は，気候変動とその対応に関するメンバー国の懸念に応えると共に，PIARC TC 1.4（Climate Change and Resilience of Road Network），ならびに PIARC TC 1.5（Disaster Management）との協働を図るものである。2021 年 12 月と 2022 年６月にオンライン会議を開催しており，気候変動とその対応を巡るベストプラクティスを包括するレポートを作成している。ドラフト作成は来年３月の予定である。

８月末までにケーススタディの提出を求められていたが，豪州，台湾，インドネシアの３カ国の事例のみとなっている。しかしながら，６月のオンライン会議では，今後のケーススタディの受け皿としてファクトシートを小委員会内で共有できることとした。なお，11 月にジョグジャカルタにおいて PIARC TC 1.4 と TC 1.5 共催の国際セミナーの開催が予定されている。

REAAA 第 22 回若手技術者・専門家会議出席報告

北　口　　修*　大　村　　陽**　小　林　弘　昌***

はじめに

REAAA 第 118 回評議員会の開催に先立ち，第 22 回若手技術者・専門家会議（Young Engineers and Professionals：以下「YEP」という）が，ニュージーランドの YEP を幹事として 2022 年 10 月 18 日に開催された。YEP 会議は各国の若手の道路専門家の交流を目的として開催され，2012 年 4 月の第 1 回会議以降，評議員会と合わせて年 2 回程度開催されている。前回までは COVID-19 感染拡大防止のため，評議員会同様ウェブ会議形式で実施されていたが，今回は現地での集合会議とウェブ会議を併用して開催された。

○第 22 回若手専門家（YEP）会議の概要

本会議には日本，韓国，シンガポールから約 10 名が現地での会議に参加し，インドネシア，台湾，オーストラリアから 4 名がウェブで会議に参加した。日本からは，各高速道路会社から選出されている 5 名の YEP のうち 3 名が現地での集合会議に参加した（表―1）。

表―1　各社の YEP

所属	氏名	現地参加
東日本高速道路㈱	広地　豪	
中日本高速道路㈱	北口　修	○
西日本高速道路㈱	前原　慎也	
首都高速道路㈱	大村　陽	○
阪神高速道路㈱	儀賀　大己	
本州四国連絡高速道路㈱	小林　弘昌	○

YEP 会議では，各国からの活動報告（アップデート）を行った。日本からは現地参加の各社から会社概要や現在取り組んでいる業務に係る内容を報告した。会議の中では技術的なプレゼンテーションの保管方法や YEP が REAAA の会議に論文等の投稿の機会を設けることに関する議論が行われた。また，テクニカルプレゼンテーションではインドネシアの YEP より首都移転に関することや橋梁のデザインに関する発表がなされた。

会議の最後には，参加者で記念撮影をして終了した（写真―1）。

写真―1　現地参加の YEP

参加所感

今まではウェブによる参加であったが，今回は現地開催され，初めて現地で YEP 会議へ参加することができた。ウェブ会議とは異なり，他国の若手専門家と顔を合わせて直節言葉を交わすことができたので自分にとって良い経験となった。また，COVID-19 の影響で日本での YEP 活動が制限されていたが，徐々にさまざまな規制も緩和されていることから，日本の YEP 活動も精力的に行い，今後の YEP 会議でより良い情報を発信していきたいと感じた。（北口）

今回初めて会議に参加し，自国 YEP の活動を紹介するだけでなく，各国 YEP の活動やインドネシアの首都移転といった世界的に注目される計画を具体的に知ることができ，かつネットワーキングを通じて各国の道路技術者と直接意見を交わすことができたことは良い経験となった。今後は日本 YEP として発信していくべき内容を整理し，より活発な意見交換ができるように，技術面だけでなく，英語力の向上も重要と感じた。（大村）

今回，現地会議に初参加することで，ウェブ会議では味わえない交流を経験できた。特に，海外YEPやYEP会議の運営をしている Hamzah 氏と対面して知り合うことができ，今後の日本 YEP 活動の助けとなる貴重な機会となった。また，REAAA 第 118 回評議会にもオブザーバー参加し，緊張感のある雰囲気を肌で感じることができた。（小林）

＊　中日本高速道路㈱東京支社 保全・サービス事業部事業部構造技術課
＊＊　首都高速道路㈱技術コンサルティング部海外事業推進課
＊＊＊　本州四国連絡高速道路㈱鳴門管理センター計画課